

ソフトテニス競技における地域密着型スポーツクラブの調査報告 (Ⅲ)

A New Promotion of Soft Tennis in Community-Based Sports Clubs (Ⅲ)

島山孝子

HATAKEYAMA Takako

キーワード：ソフトテニス，地域密着型スポーツクラブ，北広島町

I. はじめに

本研究では、ソフトテニス競技において地域密着型スポーツクラブとして初の事例である「どんぐり北広島ソフトテニスクラブ」を対象に調査を実施している。今回は、クラブ発足から3年が経過した今日の活動を中心に報告する。

ところで、ソフトテニスの起源は明治初期とされる。その頃、日本へ伝えられたテニス（ローンテニス、現在の硬式テニス）が、日本で変化したことがソフトテニスのはじまりである。その変化は当時の硬式用テニスボールの輸入や国内製造は、技術的にも経済的にも困難であったため、ゴムボールを使用したことである。

このように日本を発祥とするソフトテニスであるが、1990年代には競技の国際化が進められた。大幅な競技規則の変更と合わせて、名称は軟式テニスからソフトテニスへと変更された。日本で誕生したソフトテニスは、世界に向けて普及をスタートさせた。

現在、日本においてソフトテニスは、小学生から高齢者まで広く親しまれ、生涯スポーツとして注目され発展している。「するスポーツ」として日本では愛好者の多いスポーツである。ソフトテニスの競技人口はおよそ44万人とされ、日本では剣道、サッカー、バスケットボール、ゴルフに次いで競技団体への登録数が多い¹⁾。

しかし、ソフトテニスは、プロスポーツ化が進んでいる他のスポーツに比べて、「観るスポーツ」としては、観客動員の少ないスポーツである。

ソフトテニスのこのような現状の中で、本研究の調査対象である「どんぐり北広島ソフトテニスクラブ」は、大会の応援に来るファン層を北広島町内に広げ³⁾、地域

の人々とソフトテニスを通して関わりを深めている数少ない事例である。

そこで今回は、2018年、2019年に調査した結果を中心に報告するとともに、この事例を参考に、ソフトテニス競技の「観るスポーツ」としての可能性も合わせて検討したい。

II. 地域密着型スポーツクラブ「どんぐり北広島ソフトテニスクラブ」の取り組み

1. 地域密着型スポーツクラブ誕生の経緯²⁾

2002年、北広島町では総合型地域スポーツクラブの立ち上げが計画された。町のテニスコートの有効活用を考えていたこの時期に、ソフトテニス競技で協力したのが当時の実業団チームNTT西日本広島である。

2003年には、NTT所有のテニスコートおよび体育館の売却が決まる。この時北広島町はテニスコートをチームの恒常的な練習場所として提供を申し出た。チームにとっても町にとってもタイミングを良い動きであった。その後、チームと北広島町は戸谷地域営農組織による米の提供や、選手による講習会など様々な形で絆を育んでいった。

このような経緯を経て2016年3月に地域密着型ソフトテニスクラブ「どんぐり北広島」が誕生した。この年、選手は北広島町に移住し町内に就職した。チームは地域に生活基盤を置き競技生活を送り始めた。

2. 地域密着型スポーツクラブとしての取り組み³⁾

選手の移住によって北広島町にはこれまで以上にチームによる地域貢献が進んだ。大会や講習会の開催によって多くのソフトテニス関係者が北広島町を訪れるように

なった。この動きに対して町内でも様々な支援の形が広がっていった。

クラブ誕生の礎を作ったのは戸谷営農組織の支援に代表される家族のようにチームを見守る慈しみのこもった地域の支援体制である。詳細は前回報告したが、選手の成人式開催は地域を挙げての行事となり、地域の力を象徴する催しとなった。

2017年、北広島町とチームの活動に対して日本商工会議所から奨励賞が贈られた。受賞の理由には全国から合宿や大会、講習会に多くの関係者が集まること、チームの関係者が地域に移住・就職し人材の確保につながったこと、住民の健康づくりに貢献したことに加えて「選手の活躍する姿を地域住民が温かく見守っていく仕組みが完成した。」⁴⁾ことが挙げられている。北広島町の持つ地域の力と、チームがつながって作り上げられた仕組みと言える。

3. 「ふるさと納税」による支援

2018年、北広島町は「平成30年度きたひろ応援ファンド事業」としてふるさと寄附型の募集を実施した。この事業に、「ソフトテニスを通じた地域活性化事業」⁵⁾の申請が行なわれた。前回報告した通り、町としてもふるさと納税を活用したチーム支援の形を検討していた中で、このような形での実施となった。

「平成30年度きたひろ応援ファンド事業」はプロジェクトの実行者が事業の申請を行い、選定委員会において審査・認定を受けて実施される。町は規定の補助金とふるさと寄附を交付するものである。2018年6月から7月の2か月の間、全国へ向けてふるさと納税を呼び掛けた⁵⁾この事業は、目標額2,000,000円に対して3,990,000円(200%)を達成した⁶⁾。

4. 2018アジア大会優勝後

2018年、選手は各種大会において優秀な成績を収めた。特に、2018年9月にインドネシアで開催されたアジア大会における活躍は「地域密着型スポーツクラブの発展に更に大きな力となった」とチームの監督は語る。

アジア大会における高橋選手と半谷選手の活躍である。高橋選手は女子シングルにおいて日本初の金メダルを獲得した。次いで行われた団体戦においても女子は金メダルに輝いた。高橋・半谷組はダブルス1試合目に出場し金メダルにつながる貴重な一勝を挙げた。凱旋後、北広島町役場本庁舎を会場に行われた報告会には多くの町民が集まり優勝を祝福した(写真1)(写真2)⁷⁾。

北広島町は、2005年に芸北町、大朝町、千代田町、豊平町の4町が合併して発足した町である。町としては中国地方一の面積(646.20km²)である⁶⁾。このような地域



写真1 北広島町役場本庁舎を会場に行われた報告会に集まった人々



写真2 北広島町役場本庁舎を会場に行われた報告会

性に加えて、チームとの関わりはこれまで主に豊平地区で行われていたことから、他の3地域でのチームの認知度は低かった。町では北広島町全体へチームの認知を図るよう広報を充実させたいと考えていたが、アジア大会での高橋・半谷選手の金メダル獲得によって、チームの知名度は一気に上がり、地域密着型スポーツクラブとしての発展に勢いを増すこととなった。

Ⅲ. ソフトテニスの発展に向けて

1. ソフトテニスの現状と課題

ソフトテニス競技は日本を発祥として明治期から今日まで発展を遂げ、現在も日本においては愛好者の多いスポーツである。しかし、日本以外の国では認知度の低いスポーツであった。そこで1990年代には、ソフトテニスを世界に普及させるために競技の国際化が進められた。普及活動は世界の多くの国々に及んだ。現在、ソフトテニス競技の世界大会参加国は26ヶ国である。また、「観るスポーツ」としては硬式テニスに比べ、ソフトテニスは観客動員数の少ないスポーツである。

ソフトテニスは、硬式テニスを土台に、日本独自のテニスとして発展してきた歴史的な経緯を持つスポーツである。テニス(現在の硬式テニス)が日本に伝来した時代に、日本でのテニス用具の入手が困難なことから、広

く国内でテニス競技を楽しむためにゴムのボールを使用した軟式テニスとして発展した。今では、硬式テニスボールの入手の容易な日本において硬式テニスの愛好者は多い。プロ選手としても活躍の場を持つ硬式テニスに比べ、同じ競技形態を持つソフトテニスはプロスポーツ化が十分に進んでいないのが現状である。その要因の一つと考えられる硬式テニスとソフトテニスの観客動員数の差を埋めることは、ソフトテニス発展の一つの課題であると言える。

2. 変化するソフトテニスのプレイスタイル

現在、日本のトップ選手は、雁行陣と並行陣を中心にプレイを組み立てている。雁行陣は主にベースラインプレイを担当する後衛とネットプレイを担当する前衛に役割を分けて行う。並行陣とはベースラインプレイを二人で担当するダブル後衛型と、二人ともネットプレイを中心に戦うダブル前衛（ダブルフォワード）型である。また、試合状況に合わせて雁行陣・並行陣の両方を取り入れるとオールラウンドなプレイスタイルになる。

ゴムボールの特性を活かしたプレイもソフトテニス競技の特長である。ボールにスピンをかけるカット系の技術を駆使したプレイはゲームの展開に大きな変化をもたらしている。ゴム製ボールを活かした多様な場面展開に合わせて様々な陣形を変化させプレイするオールラウンド型のソフトテニスは、ベースラインプレイにもネットプレイにも必要な多様な技術が体験でき「するスポーツ」としての楽しさを増す。このようにソフトテニス独自のプレイを展開することで「観るスポーツ」として楽しみも増すことになる。プレイスタイルの多様化はソフトテニス発展の一つの方向性を示すものと考えられる。

3. 「どんぐり北広島ソフトテニスクラブ」の取り組み

近年ソフトテニスの大会ではオールラウンドなプレイスタイルを多く見ることができるが、女性でのこのスタイルの先駆者はどんぐり北広島ソフトテニスクラブである。チームの監督中本裕二氏はその著書「身になる練習法ソフトテニスオールラウンド力を高める」⁸⁾の中で「チームと二人三脚で歩み、研究、分析、工夫……と積み重ねていく中で生まれたのが『攻撃型並行陣』」であるとしてこの陣形を紹介している。著書に示す通りチームはオールラウンドプレイでアジアを制した。

現在、北広島町で開催されているチームによる講習会には多くの選手が集まる。また、チームは全国各地でも講習会を実施している。この講習会を通してチームのプレイスタイルを多くの人に伝えている。

このクラブの取り組みで今一つ注目すべきことは観客への配慮である。写真3は、2018年10月に熊本県で開催

された天皇杯・皇后杯全日本総合選手権での「どんぐり北広島ソフトテニスクラブ」の応援席で目にしたものである。北広島町からは大会会場へバスで応援に駆け付ける人々がたくさんいる。(写真4) その応援者へ向けた試合経過を伝えるボードである。試合進行が一般の人にも理解しやすいようにとチーム関係者が工夫して作成した。ソフトテニスを「観るスポーツ」にするための試みが行われているのである。

既に報告³⁾したが、支援者の一人Kさんは「チームは志の高さを感じることでできるテニスを見せてくれる。みんなの理解・輪を広げ、試合をみる人ができて、大会を見に行く動きから、練習を見に来るようになる形が作られたなら、このスポーツは地域密着型として成功と言える。」³⁾と示唆に富んだ思いを語っている。

ソフトテニスを、どこまで人に感動を与えることのできる「観るスポーツ」に高めていくかは、「どんぐり北広島」の使命であるのかもしれない。「地域の支援にこ



写真3 どんぐり北広島ソフトテニスクラブ応援団に向けた試合経過ボード



写真4 町から駆け付けたどんぐり北広島ソフトテニスクラブの応援団

たえることができるような、我々が感動を伝えることのできる試合をしたい」と語る選手の地域へ強い思いは、ソフトテニス界全体の発展へとつながっていくように思う。

Ⅳ. まとめ

本研究では、ソフトテニス競技において地域密着型スポーツクラブとして初の事例である「どんぐり北広島ソフトテニスクラブ」を対象に継続的に調査を行っている。

2016年3月に北広島町に地域密着型ソフトテニスクラブ「どんぐり北広島」が誕生して3年が経過した。2002年からのチームと北広島町との交流を基盤に、チームの移住後は更にチームと町とのつながりは盤石なものとなった。2017年、日本商工会議所からは奨励賞が贈られた。受賞理由の一つには「選手の活躍する姿を地域住民が温かく見守っていく仕組みが完成した。」⁴⁾ ことがあげられている。

2018年にはふるさと納税による「ソフトテニスを通じた地域活性化事業」がスタートした。この年目標額の200%を達成した。更に、2018アジア大会での金メダル獲得は、それまで課題であった町内でのチームの認知度を一気に高めることとなった。北広島町のチームを温かく見守る仕組みには地域性が現れている。この地域に支えられチームは多くの成果を上げた。この事例はスポーツを通して地域とチームが支え合い、共に発展する地域密着型スポーツクラブの目指す一つの方向を示しているように思う。

また、チームの取り組みからは、ソフトテニス発展のかたちを見ることができる。その一つはチームのプレイスタイルである。オールラウンドなプレイはソフトテニスを「実施して楽しい、観ても楽しい」スポーツに発展させる可能性を持っている。また、一般の応援者に対しての配慮もあげられる。それは北広島町からの大会応援者に対して、わかりやすく試合進行を示したボードの作成である。ソフトテニスを知らない人にも観て楽しんでもらうための工夫である。チームは「観るスポーツ」としての課題ではある観客動員数を増やすための先駆的な取り組みを行っている。

地域密着型ソフトテニスクラブ「どんぐり北広島」のこのような取り組みは、これからのソフトテニス発展の可能性を示していると考えられる。

付 記

本研究は、平成30年度北方圏生涯スポーツ研究センター・センター選定事業として実施した。申告すべき利

益相反はない。

文 献

- 1) 笹川スポーツ財団：中央競技団体现況調査2018
<http://www.ssf.or.jp/report/category3/tabid/1820/Default.aspx>, 2018. 10. 27参照
- 2) 畠山孝子：ソフトテニス競技における地域密着型スポーツクラブの調査報告（Ⅰ）. 北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター年報, 7: 181-183, 2016.
- 3) 畠山孝子：ソフトテニス競技における地域密着型スポーツクラブの調査報告（Ⅱ）. 北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター年報, 8: 105-109, 2016.
- 4) 公益社団法人 スポーツ健康産業団体連合会ホームページ
<http://www.jsif.or.jp/others/pdf/sportec2017prize1.pdf>, 2017. 11. 24参照
- 5) 北広島町企画課：平成30年度きたひろ応援フェンド事業（ふるさと寄附型）募集要項
- 6) 北広島町ホームページ参照：<https://www.town.kitahiroshima.lg.jp/>, 2017. 11. 24参照
- 7) 地域密着型ソフトテニスクラブ「どんぐり北広島」ホームページ：
<http://donguri-zaidan.sakura.ne.jp/wp>, 2017.11.24参照
- 8) 中本裕二：身になる練習法ソフトテニスオールラウンド力を高める. p3, ベースボールマガジン社, 東京, 2016.